

## 国有林における生物多様性の定量化について

林野庁 国有林野部 経営企画課  
 国有林野生態系保全室 保全対策係長 兼光 修平

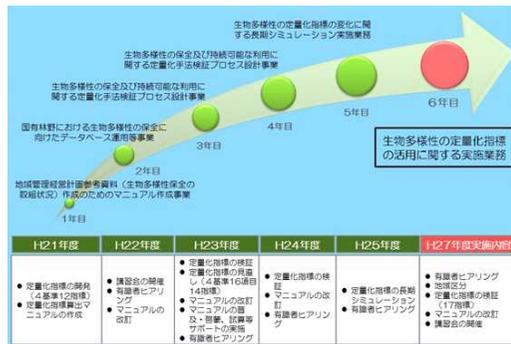
### 1 課題を取り上げた背景

生物多様性保全に対する関心や期待の高まりの中、林野庁は平成21年7月に「森林における生物多様性の保全及び持続可能な利用の推進方策」をまとめ、森林計画策定プロセスの一層の透明化等の観点から、生物多様性の評価軸となる指標の設定を通じた科学的分析の必要性を示しました。しかし、生物多様性の指標は、象徴的な生物種が生育・生息しているかといった定性的な指標は存在していますが、定量的な指標の設定は困難で、試行的な取組でさえほとんど行われていない状況でした。

そうした中で、国有林では、国有林野における生物多様性の状況を定量化・可視化出来る体制を構築するため、定量化手法の開発に取り組んできました。

### 2 取組の経過

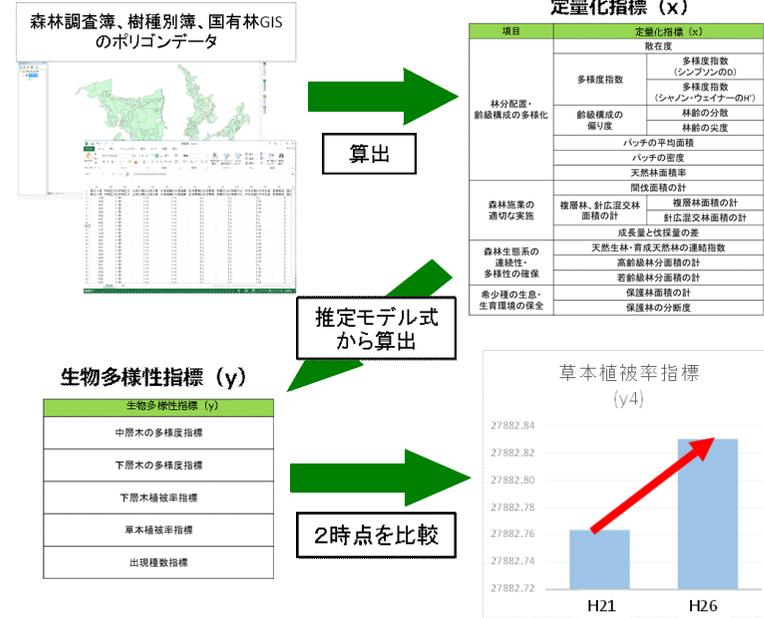
国有林における定量化手法の検証・開発については、平成21年度から行ってきましたが、全国共通で適用できる指標を組み合わせることは難しく、地域によって森林施業の効果の現れ方が異なる等課題がありました。そこで、平成27年度においては地域別に



定量化手法の検証・開発ロードマップ

生物多様性の推定モデルを作成するとともに、森林計画担当職員が活用できるようマニュアルを整備したことで、実際の運用が始まりました。

### 3 実行結果



各種データから生物多様性指標 (y) を算出し、過去の2時期の数値を比較して変化傾向をみることで、相対的に見て生物多様性がプラス傾向にあるのか、マイナス傾向にあるのかが分かります。変化傾向を読み取り、向上させるような施業・対策を次期森林計画での検討に活用します。

### 4 まとめ

国有林の調査簿やポリゴンデータ、森林生態系基礎調査データ等を用いて、継続して生物多様性の状況を把握することが可能となりました。今後は、森林施業の影響を把握、データを蓄積していくことで、各森林計画区での生物多様性の変化傾向を捉えて、国有林野における生物多様性保全の取組の推進に活用していきます。